

STOPWATCH

COMMUNICATION SERVICE PROVIDER®

2026 JANUARY Vol.45

最近、ウマいことノッてます。



STAFF ALPHA COMMUNICATION INC.

マイネイルボックス フェアリーズ、堂々の開業 20周年

スタッフアルファ直営のネイルサロン「マイネイルボックス フェアリーズ」(千葉県市川市、ニッケコルトンプラザ内)が開業20周年を迎えた。かつてホテルのブライダルネイルからスタートしたこのブランドは、商業施設へ活躍の場を移した。地域に根差しながら、幅広い年代の来店客に親しまれてきた。買い物の合間に立ち寄れる利便性に加え、カウンセリングを重ねて爪の状態や希望スタイルに合わせた施術を行う点が強み。店長の中村は節目に当たり、「この度、サロンが20周年を迎えられたことを心より嬉しく思います。私自身も20年間このサロンに携わせていただき、多くのお客様とのご縁に支えられ

てきました。長年通ってくださるリピーター様やVIP会員様、そして共に歩んできたスタッフの存在が、このサロンの何よりの財産だと感じています。これからも感謝の気持ちを忘れず、変わらぬ安心と技術をお届けしていきたいです。」と語る。同店は衛生管理や技術研修を継続し、爪先の美しさだけでなく健康面にも配慮したケアを重視する方針。近年は時短ニーズに合わせたメニュー構成も見直し、来店頻度や予算に応じた提案を強めている。20周年を機に、小学生の職業体験への協力など地域とのつながりを一層深め、次の節目に向けて歩みを進める。



射的からフリマまで、3つの顔で出展という新技

東京東信用金庫が主催する中小企業や地域団体による優れた商品や技術が集計する「ひがしんビジネスフェア」が墨田区の両国国技館で開催された。当社は一昨年に引き続き出展し、時間帯ごとに変わる体験企画を実施。「体力測定」「ポイ破り射的」「イベントあまりもの市」の3コーナーを展開し集客を仕掛けた。参加費として頂いた売上は少額ながら会場地である墨田区の社会福祉協

議会に寄付することとした。小規模であったがブースに人だかりができる時間もあり、それぞれのプログラムで賑わいを見せ、会話が生まれた。業種や地域の垣根を超え、新たなビジネスチャンスへと繋がる多くの機会を得ることが出来る中小企業主体の展示会は終日多くの生活者で溢れ、展示会というよりはお祭りさながらの賑やかな秋の行事と言えるのではないかと。



才気煥発

▽部署名を「流通プロモーション部」を「スポーツ・文化制作部」に変更して3年ほど経過したが、昨年はありがたいことにスポーツ関連イベントがことのほか多かった。通年お世話になっている競馬や自転車はもちろんのこと、二輪、フィットネスから空のモータースポーツに至るまでさまざまである。今月はeスポーツのイベントも間もなく担当させていただく。▽我が国ではコロナによって待望のオリンピックが無観客となってしまったが、それでも以後のスポーツ熱は充分高まってきたようでサッカーやラグビーもファン層が拡大し、それにもま

してバスケットボールはショービジネスとしても業界が力を入れており、競技用アリーナも各所に建設されている。▽MLBでの日本選手の活躍はすでに社会現象にまでなっている。昨年はグッズ販売もお手伝いしたが、今年もおそらくものすごいグッズ市場となるはずである。▽見るスポーツだけではなく参加するスポーツとして、スポーツジムがそこら中にできている。健康や体力増進のためには喜ばしいことであるが、ビジネスとしてはまだまだ厳しいのも事実のようだ。弊社の近隣でもいくつかのジムが新たに outlets、消えていった。▽我が家の

近所に最新式のバッティングセンターもできたとテレビで紹介されていたが、それから6か月、あまり流行っているようには見えない。同様に近隣のシミュレーションゴルフもいくつか店を閉じたという事例を聞いた。▽スポーツは楽しむもの。しかしビジネスにするにはそれなりの資本が必要なのだろう、街場のスポーツ事業はまだ苦戦している。次はどんなジャンルのスポーツがビジネスとして活発になっていくのだろうか。大手を凌駕するベンチャースポーツビジネスに期待しつつ、そんな新鋭と組みたいとしたたかに想っている新春である。

「WINGS 2025」～新競技誕生の舞台とは

前号でもご紹介していたフライトエンターテインメント「WINGS 2025」が、10月に福島市・ふくしまスカイパークにて開催された。本イベントは、パイロットの迫力あるフライトとプロDJがシンクロする世界初の競技「エアダグンスバトル」が見どころ。かつて幕張で世界を沸かせたエアレースや「エアレース・X」で活躍するアジア人唯一の世界チャンピオン・室屋義秀選手とアaron・デリュエ選手が熱戦を繰り広げ、ステージでは代表・松山の演出のもと、世界的に有名なヒューマンビートボックスやミュージシャンによるライブ

パフォーマンスが行われ、会場を大きく盛り上げた。当社はステージ演出や競技プロデュースに加え、イベント事務局対応、グッズ販売、関係者・ゲスト対応、お客様向けコンテンツの運営も担当し、円滑な会場運営を支えた。前日は豪雨によりリハーサルは難航したものの本番当日は快晴に恵まれ、家族連れや航空ファンで賑わう一日となった。今回は今年の5月に予定している。今後も新競技「エアダグンスバトル」の認知拡大に向け、イベントを通してその魅力を広げていきたい。



新ネーミングは「ペダリコ」～代々木公園サイクリングセンター始動

代々木公園サイクリングセンターは、新たに「代々木公園サイクリングセンター〈ペダリコ〉」として昨年12月に生まれ変わり、再スタートを切った。木場公園キッズリウムに続き、公益財団法人東京都公園協会様より受注した施設。「ペダリコ」というネーミングは社内公募によって決定した。ペダル+リコ(豊か・気持ちいい)を組み合わせた言葉で、自然とペダルを踏みたくくなるような、軽やかな響きをイメージしている。施設内も内外装をリニューアルし、まさに生まれ変わったアーバンスポーツ施設である。ペダリコでは、都内では珍しい自転車体験ができる。タンデム自転車(二

人乗り自転車)や、未就学児を二人同時に乗せることができる日本初の三輪自転車「ふたごじてんしゃ」などがその一例である。近くにお越しの際は、ぜひ代々木公園の自然に溶け込んでの体験をしていただきたい。また、下期は自転車に関する話題が尽きない。12月初旬には、レインボーブリッジ封鎖しを自転車で走行できるイベントが開催された。早朝から約6,000台の自転車愛好家が集まり、会場は大いに賑わった。同会場では、大人から子どもまで楽しめるさまざまなスポーツ体験ブースも展開され、幅広いお客様に楽しんでいただけた現場となった。



前向きな姿勢が光る内定者二名をご紹介します

この春、当社に狩野龍樹と垣本瑠璃、二名の新卒が仲間入りする。狩野は相手に合わせて会話を広げるのがうまく、周囲に自然と人が集まる存在、一方、垣本は好きなものへの愛が深く、その思いをまっすぐ言葉にできる人物である。「ファンタイム研修」と称して訪れた舞浜のテーマパークでは、全力で楽しみながらも、業務や現場の話には真剣に耳を傾けてくれた二人。このあと3月の合宿を経て入社となる。入社に前向きな姿勢を嬉しく感じるとともに、共に働く日を待ち遠しく思う。



ごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。旧年中は倍旧のお引き立てを賜り深く御礼申し上げます。弊社にとってもある意味激動の1年間でした。世間的な人材不足の中、マンパワーに依存するビジネスが好調な半面、社内人材の不足に泣かれ、社員総出で1年間の案件の多くを懸命に取り組んできた印象です。一方社会の流れはというと相変わらずの猛暑が長期にわたり最早、四季が崩れてきたといっても過言ではありません。昨年の漢字は『熊』。何とも皮肉な世相の反映です。政治の世界では我が国初の女性総理の誕生で支持率も上がった矢先に対中でこじれているままの年越し、米騒動もまだまだ落ちつかないようです。明るいニュースとしては数々の予想を覆して大阪関西万博が成功裏に閉幕したことでしょうか、年を越してなお、ミャクミャクが人気者のようです。弊社に於いては大型のイベントをご発注いただく機会が多く、社員にとっても希少な経験になっただけでなく売り上げ的にも大いなる貢献でありました。メディアに紹介される案件も今年は多かったように感じます。そして迎えた2026年、今年は新たな施設運営が3件増え、昨年にも増して忙しい1年になりそうな予感です。社員一同、作品のクオリティを上げて、より喜んでいただけるようなイベントや施設を世の中に提供していければいいなと緊張の中にも期待感で溢れています。お取引先様に於かれましてはぜひとも弊社を引き続いでパートナー企業としてご愛顧いただきたくお願い申し上げます。また協力会社様に於かれましては弊社とともに成長する仲間として今まで以上のお力添えをお願い申し上げます。末筆ですがお取引先各社様のご繁栄と皆様の2026年のご健勝を祈念いたしまして年頭のご挨拶に代えさせていただきます。

江戸川区初の大学との連携めざす。

当社では現在、同区内で初となる4年制大学「青森大学東京キャンパス」との相互協力体制の構築を進めている。同大学は当社から徒歩約20分という近距離に位置し、留学生を中心に約150名の学生が学ぶ、地域に根ざした大学。今後は区内行事への参画などを通じ

た産学連携を具体化し、当社のみならず区内中小企業にも協力を呼びかけながら、大学活動の活性化に貢献していく方針。また、学生のインターンシップや職業体験の受け入れにも積極的に取り組み、地域と若い力がともに成長できる関係づくりを目指していく予定だ。



アルファノヒト

ALPHA NO HITO

毎号、スタッフアルファの「ヒト」にフォーカスしてご紹介する本コーナー。今回は、教育産業から外食（大手ラーメンチェーン店）を経て、40代にしてイベント業界への華麗なる転身を遂げた、クルーマネジメント部 松原啓太にインタビューを行った

— スタッフアルファ（以下SA）に入社した理由を教えてください。

以前はサービス業に従事しており、イベント業界については知識がない状態で中途入社しました。人に喜んでもらうことや楽しませることにやりがいを感じ、より多くの人の心を動かせる仕事がしたいと考えようになり、自分自身が楽しむ」という企業理念に強く共感しました。

— SAの仕事に就いてやりがいを感じる瞬間を聞かせて下さい。

現在はクルーマネジメント部として、スタッフの管理を担当しています。店舗や現場では想定外のことも多く起こりますが、その一つひとつに引き合い、対応していく難しさの中に大きなやりがいを感じています。また、協力してくれるスタッフの皆さんの人柄や優しさに日々助けられています。お客様から直接「ありがとう」と言っていただけの仕事に携わっていることにも、強い誇りを感じています。



株式会社スタッフアルファコミュニケーション
クルーマネジメント部

松原 啓太（まつばら けいた）

Profile

出身：東京都
入社年度：2023年4月入社
趣味：野球観戦、会社ブログ
好きなもの：ヤクルトスワローズ、スーパー銭湯、
激辛料理

— 仕事をする際に意識していること、大切にしている事はありますか？

意識しているのは、常に相手の立場に立つて考えることです。クルーマネジメント部としてスタッフ一人ひとりの状況や気持ちに目を向け、安心して働ける環境づくりを大切にしています。

余談ですが、会社のスタッフブログ更新は私のライフワークのひとつです。当社のスタッフにも是非見てほしいと密かに思っています。全投稿の3分の1は、私の作品だと思っています。



— 今後チャレンジしたいこと、取り組んでみたい企画はありますか？

今後仕事でチャレンジしたいことは、より規模の大きな案件や難易度の高い現場の責任者を任せられることです。ヤクルトスワローズの本拠地「神宮球場」で大きなイベントに携わってみたいと思っています。

クルーマネジメント部としては、スタッフ一人ひとりが安心して力を発揮できる仕組みづくりに力を入れていると考えています。また、自身の中途入社経験を活かして新入社員や後輩育成にも積極的に関わり、チーム全体のレベルアップに貢献できる存在になることを目標としています。

— 仕事が忙しい時のリフレッシュ方法や、モチベーションの保ち方を教えてください。

仕事のリフレッシュ方法は、しっかりとオンとオフを切り替えることです。ヤクルトスワローズのファンなので、シーズン中は球場に行つてストレス発散をしています。

— これまでで印象に残っている案件やエピソードがあれば教えてください。

これまでで特に印象に残っているのは、私が初めて責任者を務めた「シニアお仕事フェア」です。打ち合わせの段階からクライアントとの交渉まで任せていただきましたが、当初は案件全体のパワフェクトなイメージを持つことができず、細かいミスをしてしまうこともあり、最後は周囲の支えを受けながら無事に終了し、最後にクライアントから「ありがとう」と声をかけていただいた瞬間は、大きな達成感とともに心からホッとしたことを今でも覚えています。



スタッフアルファの
オフィシャルブログはこちら

スタッフアルファの Facebook®

スタッフアルファの管理職が今更ですがSNSに取り組んでいます。テーマは主に2つ。社内の様子を紹介した投稿と地元西葛西の紹介「西葛西放浪記」です。お時間つぶしにご覧いただき是非フォローしてください。たまにすごい記事(?)が載っています。

